

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全てを支援するのではなく、その人のできることは見守り、在宅と同じように楽しく生き生きと、喜びをもって生活できるよう支援している。利用者の笑顔に職員の努力が現れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員全員が理念を理解し、毎日の朝礼時に申し送りを確認する等、真剣な取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム関係者だけではなく、隣接の特別養護老人ホーム（以下、「特養」という。）に見えた方等も顔をだして声を掛けられる等の交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員ともに評価の意義をしっかりと理解し、「気づいたことは、何でも声をかけてください」との姿勢で取り組んでいる。訪問調査時の最後の話し合いでは法人の代表者をはじめ、理事、特養の副園長、ケアマネジャー、グループホーム管理者・計画作成者の6名が集まり、熱心に傾聴された。		

宮崎県小林市 グループホームひなもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族や地域住民の代表、各併施設職員、市役所職員の方々が参加され、2か月ごとに開催されている。6月には避難訓練等を行い、講評を受ける等、熱心に取り組んでいる。	○	当日欠席者に対しては、後日内容を報告しておくこと、 “知らなかった・・・”ということもなく、サービス向上につながると思われる。また、民生委員の出席も呼びかけてみると、更に地域住民との連携が深まるのではないかとと思われる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームだけでなく、利用者に関係のあるケアマネジャーや支援センター等の職員も加わり、交流・連絡事項・報告しあっている。難題に対しては、指導を仰ぐ等、質の向上を目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の金銭管理や健康状態を報告している。		面会時の小遣い入金の際に、出納帳もサインをもらうようにすると、さらに家族からの安心が得られると思う。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情を受け付ける箱の設置や、職員の積極的な態度から見ても、話やすい雰囲気をつくり、それを向上に反映させる姿勢が見られた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットに永年勤務の計画作成者が一人ずつ配置してあり、職員の異動があっても利用者への影響を少なくすることや、新しい職員によるサービスの低下を防ぐ配慮がされていた。	○	毎月の報告の際、職員の異動を知らせるようにすると、家族との信頼もなお増してくるのではないかとと思われる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や外部研修も取り入れ、復命書もしっかりできていて職員の資質向上に取り組んでいる。内部でも、あらゆる部署の合同研修を月1回、グループホーム内での研修を夜勤者を除く全員参加を目指し、午後6時からの勤務時間外に行っている。	○	管理者の退職が少し多いのではないかと思われるので、上司が相談等の対応に取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西諸地区のグループホーム同士で交流の場をもち、3か月に1回の研修や、ネットワークづくりに取り組んでいる。同法人内でも、グループホームやデイサービスの職員と密に連絡を取り合い、サービスの向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の希望を日常に生かしている。生活歴も上手に取り入れ、パッチワーク趣味の方で精神不安が見られる日は、パッチワークの話をしたり、和室希望の人には和室を案内したり、話かけてくる人には優しく応じたりと、一人ひとりが安心して過ごせるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どのユニットに行っても相手に合わせた言葉での配慮も見られ、和やかにゆったりと時が流れている。利用者同士もお互いに笑顔で会話をかわしている。外部者に対してもすぐ受け入れる姿勢で対応し、帰る際には握手をして帰る。職員の日常の処遇が利用者へ寄り添っているのを感じられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事では味付けをする人・配膳をする人・テーブルを拭く人・下膳をする人・食器を洗う人等、強制ではなく自然にお互いが役割分担し助け合う姿が見られる。必要なところどころで目立たぬよう自然に職員が支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と管理者、介護に接する職員、その他必要な関係者との会議を持ち、計画作成担当者のみで作成することのないよう各立場での意見を取り入れ、より良いケアができるよう配慮されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しがされていて、状態変化の随時の見直しがされている。	○	状態変化の少ない人を見直しの計画記録がなかったので3か月に1回は、見直しの計画を立てることが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望や状況に応じてサービスを行っている。遠くから面会に見える家族には一緒にいる時間を多くするため、宿泊にも応じている。ベッドをキャッジベッドにしたリ、ベッドを除き畳を入れたり、細やかで柔軟な支援をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医や嘱託医など、気軽に相談できる体制が整っており、夜間や緊急の場合でも、受診や処置等が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や掛かりつけ医と話し合う機会を持っている。管理者や職員も終末期まで看取るのが理想と言い、家族と話し合った上でできることとできないことを見極め、支援する方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員が一人ひとりに対して言葉にも気をつけており、記録等や利用者の部屋に入るのも心配りが十分できている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の趣味を取り入れ、パッチワークや小物づくり・絵画・読書・テレビ・会話等、個々に合わせ対応されている。衣類を1日数回着替える人には、自分で好みの服を選べるよう、自分のペースに合わせて暮らせるよう支援されている。		

宮崎県小林市 グループホームひなもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ、味つけや台ふき、食器洗いと見守りながら支援が行われている。にこやかに和やかに会話がはずむ食卓である。	○	職員は弁当持参で、2人とも介助に当たられていたので、週に一度でも良いので、利用者と一緒の食事を同じテーブルで食べてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望の時刻に支援している。週3回の入浴で、利用者は顔色も良く清潔感がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者や職員が一人ひとりの生活歴や趣味等を生かし、あらゆる場面で支援をしている。90歳以上の方が、パッチワークを作られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人、家族の要望で一時帰宅やお墓参り等を支援している。利用者は戸外に出ることを喜ぶので職員も支援を心掛けている。	○	法人の代表者が散歩は高齢者にとってとても良いとの考えで、グループホーム周囲に地域の人と交わる散歩コースを建設中である。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は広く日中鍵をかけず、利用者の外に出たい素振りを感じると、その意志に沿って一緒に散歩する等、和やかな対応をしている。		

宮崎県小林市 グループホームひなもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行い周知徹底している。地域防災協力会を組織しており、地域の人々の協力体制がある。	○	災害時に対応が遅れることもありうるので、夜勤者は、1ユニットに1人が望ましいと思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する特養の管理栄養士が利用者の健康状態に合わせたバランスの良い調理方法を工夫している。お茶も飲みやすいように家庭で使っていたお湯のみを利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のどの部屋からも景色が見え明るい。和風作りで、障子から入ってくる光は心を和ませる。また、どのユニットにも、廊下の角には三角のいすが設置してあり、疲れた時や景色が見られるよう配慮されている。廊下に開放された和室があり、おのおのが洗濯物をたたんだり会話をしたり、空間の工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋もきれいで清掃が行き届いている。家で使い慣れたちゃぶ台や小さな小物入れ、鏡等が置いてあり家庭的である。日ごろ着替える服は、3～4枚ハンガーにかけてあり簡単にとれるよう工夫されている。自宅に居る感じが随所に見られる。		

※  は、重点項目。